2023年度 事業・活動報告

2023 年度ハイライト

- ➤ FRJ2024 での 4 年ぶりの対面イベントの開催
- ▶ ファンドレイジングの実践を積みたい団体とファンドレイザーのマッチングを行い、実践体験を提供する「ファンドレイジング実践プログラム」の展開開始
- ▶ カードゲーム「from Me」の企業、学校等への提供、ファシリテーター育成の本格展開
- ➤ AVPN 日本代表パートナーとしての始動、韓国財団との協働による「アウトカムファンド for IMM」のスタート等、海外と連携した事業を開始

2023 年度、日本ファンドレイジング協会は、上記ハイライトに掲げるようないくつかの新しい事業のチャレンジを行ってきた。そのどれもが協会が目指す寄付・社会的投資が広がる社会の中でのエコシステムが広がっていくための新しい取り組みであり、確実な前進となった。

一方で、コロナ禍開けの社会での動向を十分に読み切れなかったことによるいくつかの目標の未達や、プロジェクトの展開スピードが思ったほど伸びなかったことにより、最終的に収支目標が未達となった。ここでの学びは協会として真摯に向き合うべき課題と認識している。

各事業の新しい取り組みの中で育まれた国内外での新たな連携は、エコシステムの発展における次の一歩への大きな足がかりとなりと考える。

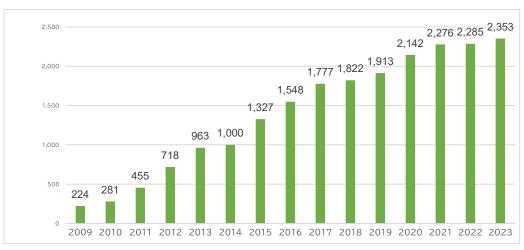
◇数字で見る日本ファンドレイジング協会の成長

·会員数の推移

ご賛同いただいている会員数も継続的な成長を実現している。

(個人会員: 2, 288 名、法人会員: 65 団体)

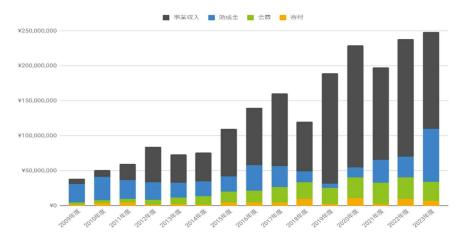
<会員数の推移>



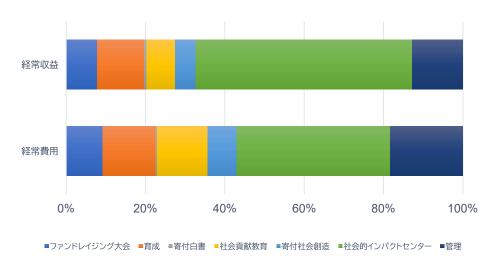
・事業業績(詳細については19頁からの決算表をご参照ください)

2023 年度は新規事業による助成金の増加、また、省庁からの受託案件が収益の増加に貢献している。一方、新プロジェクトへの投資予算、研修、大会の参加者数の目標未達等の要因のため、最終的な収支は赤字を期することとなった。

<収益の推移>



<経常収益、経常費用事業別分布>



ファンドレイジング・日本(FRJ2024)事業

◇2023 年度目標

- 学びと発表の場でありコミュニティのつながりを作り深める場としての FRJ を、対面、オンラインの両面 から考え、実現する。
- 仲間とつながり、学び合う価値が享受でき、偶発的な出会いと新しいアイデアが創出される場として FRJ が機能 していること。
- FRJ の場で、新しいプレイヤーが見いだされ、評価され、成長していく循環をつくる。

◇実績

- 第 14 回目となる FRJ2024 は「ファンドレイジングは新時代にいけるか」をテーマに、40 日間にわたり、対面イベントとオンデマンドを融合する形態で開催した。(開催期間:2024 年 2 月 21 日~3 月 31 日)
- 対面イベントは TOC 有明コンベンションホールにて開催、オンラインセッションはオンラインイベントプラッフォフォーム eventos 上にて開催。
- ・ 4年ぶりとなる対面イベントでは 26 セッションを展開、オンデマンドセッションでは 47本のセッション が公開され(総視聴数は過去最多の 9,457回)、登壇者は合計 141名となった。日本全国、そして海外 から、FRJ2024への参加者数は総計 1,169名となり、協賛・出展パートナー28社・団体、後援パートナー15社・団体、そして 41名のボランティアスタッフにご支援いただいた。

◇課題

- 参加者の対面イベント、オンデマンドの志向性の分析と、それぞれの価値の明確化と訴求を行っていく必要がある。
- チャレンジを共有し、新しい価値を生み出す期待感の湧く場の提供。
- 対面イベント開催継続に当たっては、徹底した運営の効率化、そして事業としての収益構造の改善が必要となる。



オープニングセッションには経済同友会代表幹事 新浪剛史氏、インパクトスタートアップ協会代表理事 米良はるか氏、全国こども食堂支援センター・むすびえ 代表理事 湯浅誠氏が登壇。社会課題解決を目指し、セクターを越えた協働が急速に進む様子が語られた。





1,169 名が参加した FRJ2024 の開催レポートはこちら。 https://jfra.jp/news/51081

- 「認定ファンドレイザー必修研修のテキスト」の改訂を行い、最新のファンドレイジングの手法や知見を取り入れる。
- ・ ラーニングシステムを徹底活用し、一人ひとりのニーズに応じた情報発信や学びの提供、つながりの提供を通じて、ファンドレイジングの実践をサポートする。
- ファンドレイザーが組織や社会にもたらす成果やロールモデルを可視化し、ファンドレイザーの認知向上に貢献する。
- 新たに誕生した専門ファンドレイザーをはじめとするファンドレイザーに挑戦と活躍の場を提供し、その 活躍の可視化を行う。
- ファンドレイジングが当たり前となり、新たなプロジェクトが自由に生まれるような環境の醸成を行う。

◇実績

- ・ 【認定ファンドレイザー必修研修のテキスト改訂箇所の選定(2024 年度に改訂版公開予定)】 2024 年度に改訂版の公開を予定し、改訂箇所を特定。改訂にあたっては、普遍的な知識と共に、最新のファンドレイジングの手法や知見を取り入れるため、社会の流れやトレンドを踏まえた追記や最新動向や具体的事例を丁寧に選定した。これにより、ファンドレイザーの実践に役立つ、より包括的で使いやすいテキストの改訂を目指す。
- ・ 【第8期ファンドレイジング・スクールの開講】 ファンドレイジング・スクールに、31名が入学した。そのうち5名は、スクールアルムナイからの寄付を原 資とする35歳以下の若い世代を応援する返済不要の奨学金により入学。さらに、スクールアルムナイ が事務局運営やメンターとして生徒を支援し、新たなゼミ講師も加わり、ファンドレイジング・スクール生 の9ヶ月間の学びを支援した。
- ・ 【いつでもアクセス可能で繰り返し学習できるラーニングシステムの展開】 ファンドレイジングの基礎を体系的に学ぶ「准認定ファンドレイザー必修研修」や各分野の専門的かつ実 践的な知識を学ぶ「ファンドレイジング専門コース」の基礎コースをオンデマンド化し、受講機会の制限や 受講ニーズへの対応の課題を解消し、受講者は必要な知識を自分のペースで繰り返し学習できるように なった。
- ・ 【専門ファンドレイザーの認知を高めるため、ウェブサイトで紹介】 各分野で求められる専門的かつ実践的なファンドレイジングの知識を身につけ、その領域の発展を担う 人材として期待される「専門ファンドレイザー」の修了者を、常設のウェブページで紹介。ファンドレイザーの存在と貢献を社会に発信し、広く認知されることを目指す。
- ・ 【公募で採択されたエコシステム・プロジェクトから新規研修やユースチャプターが誕生】 2022 年度の・エコシステム・プロジェクトの公募として採択されたファンドレイザーのキャリアとスキル を探求する 2 つのプロジェクトの連動企画として、寄付者との対面コミュニケーション力を鍛える 「1on1 ファンドレイジング実践」研修を実施。また、若手世代のファンドレイザー同士のネットワークのニーズが明らかとなり、その要望に応える形でユースチャプターが立ち上がった。
- ・ 【団体のファンドレイジング活動を推進する割引制度の新設】 団体のファンドレイジング活動を促進するために、「認定ファンドレイザー必修研修」の団体割引制度を新設した。これにより、団体内で複数のメンバーがファンドレイジングスキルを高めることができ、団体のファンドレイジング活動の効果的な展開を後押しすることを目指す。

・ 【団体とファンドレイザーのマッチング「ファンドレイジング実践プログラム」が始動】 本格的な活動資金調達を目指す団体とファンドレイジングの実践を求めるファンドレイザーを相互に結びつける新しいプログラム「ファンドレイジング実践プログラム」が始動した。5 つの非営利組織・ソーシャルベンチャーが参加し、各団体 2~3 名のファンドレイザーがチームとなり、団体が目標とするプロジ

ェクトを支援した。当プログラム参加により、団体は組織全体での持続的なファンドレイジング推進力を 得ると同時に、ファンドレイザーは準備から実践まで一貫して取り組むことで実績を築いた。

◇課題

・ 【ファンドレイジングニーズに応える、実績と信頼を積むファンドレイザーのためのサポート】 社会課題への対応やプロジェクトの実現に向けて、資金調達の必要性が増し、団体のファンドレイジング ニーズが増加している一方、知識を習得したファンドレイザーがファンドレイジングの経験を積む機会は 不足している状況。その原因を明らかにすることと、団体側・ファンドレイザー側ともに、ファンドレイジン グを実践できる環境やそのためのサポートが必要とされている。



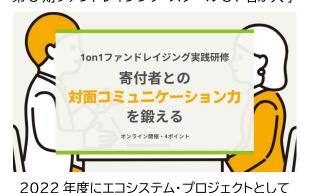
准認定ファンドレイザー必修研修のオンデマンド化



第8期ファンドレイジング・スクール31名が入学



「ファンドレイジング実践プログラム」の成果を FRJ2024 で発表



2022 年度にエコンステム・ノロシェットとして

*J2024 ^{で光衣} 採択された企画との連動企画として新規研修を実施 **認定ファンドレイザー・准認定ファンドレイザー・スクール修了生の推移**





• 寄付研究促進のための具体的な施策に着手し、実行されることにより、日本社会の中での寄付への理解 が向上される。

◇実績

- 寄付研究促進委員会を研究者・実務家メンバーで立ち上げ、研究促進のための以下の具体的取り組みを 行った。
- ・ 日本ファンドレイジング・リサーチ大賞を新設し、研究者部門・学生部門の 2 部門で募集。部門ごと、最優秀賞・優秀賞・入賞を選定し発表した。
- 当協会スペシャルパートナーでもあるリタワークス株式会社と協働で、法人寄付促進のための研究会を 開催し、各分野の研究者の協力のもと「企業寄付の科学エビデンス」として公開公表した。
- 研究者と実務家によるオンライン対談企画を行い、研究と実務の協働の啓発を行った。
- 「寄付白書プラス 2024」と題して、日本の最新の寄付動向の各種データに取りまとめて制作し、発信を 行った。

◇課題

- 研究者とファンドレイザーの協働機会の創出。
- データにもとづくエビデンスの提供とその活用の促進。

寄付研究促進委員会

企業寄付の科学エビデンス 公開

Sponsored by コングラント株式会社

コングラント株式会社と寄付研究者との協働 で企業寄付を促すエビデンスを取りまとめ発表 https://jfra.jp/news/50747

【受賞作品決定	】日本ファン	バレイジング	・リサーチ大賞
「研究者部門」	「学生部門」	各賞受賞論文法	が決定

2024.03.11 お知らせ

○日本ファンドレイジング・リサーチ大賞「研究者部門」「学生部門」 各受賞作品が決定しました/

日本ファンドレイジング・リサーチ大賞は、「日本の寄付やファンドレイジング、利他行動の貢献に迫る 学術研究やその担い手を増やしたい」「海外で見られるような、研究者と実務者の協働で行われる実践的 な研究を増やしたい」そのような思いに基づき、優れた研究を表彰し、実務者に紹介して、その知見の応 田也哲学の仏皇につかげるために「館はさかま」か。 第1回目の日本ファンドレイジング・リサーチ大賞 を登表

「研修者部門」「学生部門」にて受賞者を決定 https://jfra.jp/news/50691

- 研究者部門 - 最優秀賞: 久保雄広 (国立環境研究所 生物多様性領域生物多様性保全計画研究室 主任研究員) 「Conservation fundraising: Evidence from social media and traditional mail field experiments」 優秀賞: 河村悠太 (大阪公立大学現代システム科学研究科 准教授) 「Altruism does not always lead to a good reputation: A normative explanation」 入賞: 山本珠侯 (早稲田大学教育総合科学学術院教育学部 助教) 「学級の社会的目標構造とクラスメイトへの自律的な向社会的行動との関連ー小中学生の差異に着目して一」 電光委員会による選奨はごちら

一子生部門-

最優秀賞:陳秋伊(東北大学情報科学研究科 博士後期課程1年)

「TikTokを経由した寄付行為の研究-ソーシャルキャビタル理論に基づく中国の若者のインタビュー分析」

優秀賞:佐藤絵理(東北大学大学院情報科学研究科 博士後期課程1年)

「子育てしているひとり親女性がピアサポート活動を通して得られたことに関する質的記述的研究」

入賞:尾形紗希(関西学院大学大学院人間福祉研究科 博士課程前期課程1年)

「ボランティア動員マネジメントに関する質的研究-修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いた分析-」

■選老委員会による選評はこちら

- 寄付カードゲーム「from Me」のポジショニングとブランディングを確立させる。
- 社会貢献教育を推進する人材(ファシリテーター(FT)、教員)の拡大と質の向上を図る。
- 基本教材コンテンツの学校や地域での普及による実施数の拡大をはかる。
- 安定運営のための財源の仕組み化に取り組む。

◇実績

- カードゲーム「from Me Iの web サイトローンチ
- カードゲーム「from Me」の実施校: 24 校・40 教室・1,084 名
- カードゲーム「from Me」の公認ファシリテーター104 名・体験会受講者 2,604 名
- 教員版 Learning by Giving (LbG)を実施し、全国 5 地域(群馬、東京、静岡、京都、福岡)・6 校(ぐんま国際アカデミー中等部・高等部、高崎健康福祉大学高崎高校、板橋区立板橋第三中学校、富士市立富士川第二中学校、立命館宇治中学校・高等学校、福岡女子商業高校)の中高で実施。9 つの NPO に総額 130 万円の寄付を届けた。
- ・ 社会貢献教育プログラムは、これまでの累計で、181 校・492 教室・15,797 名の児童生徒に提供する ことができた。
- 社会貢献教育ファシリテーターは、これまでの累計で、157名、23年度1年間では、22名が新たに誕生した。
- 社会貢献教育ポータルサイトでは、教材の公開など新たなコンテンツの充実を図った。

◇課題

- プログラムの学校提供のための恒常的なチャネルの設置
- 社会貢献教育プログラムの安定実施のための財源基盤の整備
- 社会的機運の醸成



カードゲーム「from Me」の web サイトがオープン



社会貢献教育ポータルサイトで教材の公開



LbG での寄付金贈呈式



LbG での寄付先決定のため生徒の対話の様子

- 海外連携によるインパクト志向の新しい資金提供モデルの構築を行う。
- 日本・アジアとのベンチャーフィランソロピー・インパクト投資に関するネットワークの形成を行う。
- 社会的インパクト評価/マネジメントの普及と推進を行う。
- 法人連携チームを通した各部署とのシナジーの強化を行い、ファンドレイジング×社会的インパクト・マネジメントをテーマに付加価値の高い研修や伴走支援を行う。

◇実績

【海外連携によるインパクト志向の新しい資金提供モデルの構築】

韓国 SK グループの企業財団である Center for Social value Enhancement Studies (CSES)との協働により、社会課題の解決に取り組む事業者が生み出すアウトカムに対して資金提供を行う新しいプログラム「アウトカムファンド for IMM」事業を 2023 年 5 月に立ち上げた。2023 年 11 月には、4 事業者を採択し、今後 3 年間にわたって年間最大 1,000 万円の資金提供とインパクト測定・マネジメント(IMM:Impact Measurement and Management)の伴走支援の提供を行う。

- ・ 【日本・アジアとのベンチャーフィランソロピー・インパクト投資に関するネットワークの形成】 2023 年 8 月より、33 の国と地域から、ベンチャーフィランソロピー・インパクト投資に関わる 600 を 超える資金提供者で構成されるアジア最大のネットワークである、AVPN(Asian Venture Philanthropy Network)の日本代表パートナーとなった。2023 年 12 月の「Social Investment Forum Japan 2023」開催をはじめ、2024 年 2 月からはメンバーとの「AVPN TOKYO Visionaries' Gathering」の実施などを通じて、日本におけるベンチャーフィランソロピー・インパクト投資に関するコミュニティ構築、知見交流に取り組んでいる。
- ・ 【社会的インパクト評価/マネジメントの普及と推進】

「社会的インパクト・マネジメント」を普及させるためのマルチセクター・イニシアチブである、一般財団法人社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ(SIMI)の理事団体として、事務局運営を担うほか、金融機関・財団等を対象としたインパクトファイナンスに関する「インパクト・アナリスト研修」の企画運営、「SDG インパクト基準」研修の実施、デットにおける IMM ガイダンス策定等を実施した。また、営利・非営利組織4件、休眠預金活用事業の資金分配団体8件などに対して、社会的インパクト評価/マネジメントに関する研修・伴走支援を提供した。

【法人連携チームを通した各部署とのシナジーの強化】

法人連携チームを通じて、ファンドレイジング・事業計画策定×社会的インパクト・マネジメント研修 1 件を提供、各研修の評価を実施した。

【調査研究の実施】

省庁・行政案件としては、文化庁(博物館機能強化推進事業)および経産省(「未来の教室」実証事業)を 受託し、博物館・美術館等職員へのファンドレイジング研修の実施、学校独自の財源づくりのための資金 調達に関する調査を行った。また日本型の社会課題解決モデルの海外展開に向けた調査研究として、こ ども食堂モデルの海外展開に向けた基礎調査を実施した。

◇課題

当協会および社会的インパクトセンターの役割や提供価値について、特に英語情報が限定的であり、それらを分かりやすく可視化し、情報発信等を積極的に行なっていく必要がある。



「アウトカムファンド for IMM」事業を 2023 年 5 月から立ち上げ https://jfra.jp/impact/





日本・アジアにおける社会的投資市場のキーパーソンの動向や 最先端のケーススタディを発信するべく 12月1日に Social Investment Forum を開催 https://jfra.jp/sif2023/

法人連携

◇2023 年度目標

- 各分野の中間支援団体と連携し、ファンドレイジングエコシステムの構築を図る。
- スペシャルパートナー、法人会員を軸として、協会との関係性を深めていく仕組みの確立を図る。

◇実績

- スペシャルパートナー各社との四半期に一回の戦略ミーティングの実施。またそこからの具体的な取り組みの実施(カードゲーム「from Me」の協働開催、法人寄付促進プロジェクト、FRJ の開催など)。
- 法人会員への定期勉強会・交流会の開催。
- B2B 案件の受託件数の増加と提供内容の幅の拡大。

◇課題

• パートナー制度の改善と深化。

広報

◇2023 年度目標

ファンドレイジングの領域の幅広さや多様なキャリアの可能性を、分かりやすくかつ本質的な理解を広める。

◇実績

- 新聞やウェブメディアからの取材への積極的な対応と、テレビやラジオへの積極的な出演により、広範な 視聴者や読者に寄付やファンドレイジングの理解を広げる活動を展開した(メディア掲載実績は、18 頁 を参照)。
- 寄付やファンドレイジング、社会貢献教育、インパクト投資に関連する当協会のイベントやプログラムについて、プレスリリースを配信した。これにより、社会全体に向けて情報を発信し、認知拡大と理解促進に努めた。
- 当協会のオウンドメディアを通じて、イベントの紹介やファンドレイジングの事例や知見、ファンドレイジングに関する求人情報など、幅広い情報提供を行い、ファンドレイジングに関心を持つ人々に有益な情報を提供した。

◇課題

 当協会の多様な事業や取り組みを広く情報発信するため、メディアとの緊密な連携やコミュニケーション ツールの活用が不可欠であり、寄付や社会的投資に関する価値観やメッセージをより広く共有し、社会 全体に対する影響力を拡大する取り組みが求められる。

会員

◇2023 年度目標

一人ひとりの会員が自由に活動や勉強会を企画できるコミュニティの土壌を作り上げる。

◇実績

若手ファンドレイザーが切磋琢磨するコミュニティ「ユースチャプター」の創設を支援し、会員向けにイベ

ント情報などを積極的に発信した。さらに、地域やテーマ別のチャプター代表との年 4 回の会議を通じて、チャプター間での情報共有と連携を図った(地域、テーマ別のチャプターとその代表ならびに役員等は、16 頁 <表 1>を参照)。

新たなマイページシステムの構築により、会員特典の利用促進や更新手続きのセキュリティ強化と簡略 化を実現した。

◇課題

• 会員特典や手続きの利便性を向上させる取り組みに加えて、会員情報の安全で適切な管理を確保する ために、セキュリティのリスクや脅威に対する対策を強化することが求められる。

総会・理事会開催

◇実績

- 当協会の総会・理事会を 17 頁 <表 3, 4>の通り開催した。
- ・ 理事に担っていただく役割としての「業務担当理事会議」は毎月開催、「働き方改革担当理事会議」を適 宜開催した(賞与決定時、組織改革の相談)。

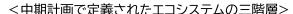
事務局運営

◇2023 年度目標

- 新・中期計画の立案。
- 組織スタッフ、TeamJFRA メンバーが、つながり助け合いながら、チーミングできるような場作り、組織作りを行っていく。その上で、健全な労働環境の提供と維持を心がける。
- コンプライアンス、ダイバーシティーに対応したオペレーションの実現を図る。

◇実績

- ・ 中期計画に着手し、Theory of Change2030 の見直しを含め、当協会が目指す寄付・社会的投資が 進む社会のためのエコシステムの健やかな成長に向けて、協会の役割、各事業との関連、ステークホルダ ーへの働き掛けを中心にエコシステムの三層構造を検討。2024 年度からの事業計画に盛り込むと共 に、2024 年 3 月に開催した FRJ2024 のオープニングセッションで公表を行った。
- ・ 中期計画策定に当たっては、理事、職員、TeamJFRA メンバーとの対話も重視をした。
- 組織内スタッフとは定期的な対面での会議を開催し、チームビルディングに配慮した。TeamJFRA メンバーとは毎月1回オンライン会議を開催し、当協会の事業の紹介や解説のみならず、メンバー自身、そして取り組みを理解できるような構成とした。
- ・ スタッフの職場環境調査の第 2 回目を実施、代表理事、事務局長、働き方改革担当理事にて対策の検討、検証を行った。実施は 2024 年度からの予定。





◇課題

- 新中期計画の公表と、それに基づく事業の展開、トラッキングを計画的に実施する。
- 関連メンバーの心身の健康への配慮と職場環境の整備、コンプライアンスの重視は継続的に実施が必要と考える。

<表 1> 地域、テーマ別のチャプターとその代表ならびに役員等(2024 年3月31日現在)

12 17 20200 7 12	1907ドラクーととの「依依なり」に区員等(として十十分)は「日光に)
チャプター名	代表ならびに役員等(敬称略)
北海道チャプター	共同代表:奥山 大介(北海道/認定講師・認定ファンドレイザー)公益財団法人札幌交響楽団 共同代表:佐藤 ゆみ子(北海道/准認定ファンドレイザー)NPO 法人コンカリーニョ 理事 共同代表:橋本 正彦(北海道/認定ファンドレイザー)community HUB 江別港 代表 共同代表:牧 伸介(北海道/認定ファンドレイザー)一般社団法人ソーシャルコミュニティデザイン 協会 専務理事
東北チャプター	共同代表:石渡 賢大 (宮城県/認定ファンドレイザー)一般社団法人日本カーシェアリング協会 共同代表:小野寺 崇 (宮城県/准認定ファンドレイザー) 共同代表:渡邉 桂子 (山形県/准認定ファンドレイザー) NPO 法人フレーム・ラボ 代表理事
静岡チャプター	共同代表:木下 聡(静岡県/認定ファンドレイザー)フリーランスファンドレイザー 副代表:千野 和子(静岡県/准認定ファンドレイザー)公益財団法人ふじのくに未来財団
東海チャプター	共同代表:近藤 みなみ (愛知県/准認定ファンドレイザー)NPO 法人アジア車いす交流センター 共同代表:山崎 恵美子(愛知県/准認定ファンドレイザー)
関西チャプター	共同代表:岡本 卓也 (京都府/准認定ファンドレイザー)有限責任事業組合まちとしごと総合研究所 共同代表:河合 将生 (大阪府/認定講師・准認定ファンドレイザー)office musubime 共同代表:米原 裕太郎(京都府/准認定ファンドレイザー)
中国チャプター	共同代表:船崎 美智子 (山口県/認定ファンドレイザー)ライフスタイル協同組合 代表理事 共同代表:中村 隆行 (広島県/認定ファンドレイザー)特定非営利活動法人ひろしま NPO センタ ー 代表理事
九州チャプター	代表:宮原 美智子 (熊本県/准認定ファンドレイザー)一般財団法人くまもと未来創造基金
アートチャプター	共同代表:奥山 大介(認定講師・認定ファンドレイザー)公益財団法人札幌交響楽団 運営メンバー:伊藤 麻里子(認定ファンドレイザー) 運営メンバー:小室 敬幸 運営メンバー:山田 心(准認定ファンドレイザー)認定 NPO 法人芸術と遊び創造協会
全国福祉チャプター	代表: 久津摩 和弘(認定講師)、日本地域福祉ファンドレイジングネットワーク COMMNET 理事長副代表: 池下 真也(准認定ファンドレイザー)鹿児島県社会福祉協議会 生活支援部 副部長副代表: 公原 寿彦(認定ファンドレイザー) 愛媛県共同募金会 事務局長事務局長: 佐藤 匠 至学館大学顧問: 早瀬 昇(認定講師・認定ファンドレイザー、社会福祉法人大阪ボランティア協会 理事長監事: 相浦 圭太(准認定ファンドレイザー/税理士)税理士法人 TA パートナーズ 代表監事: 樽本 哲(准認定ファンドレイザー/弁護士)インテアス法律事務所代表
大学チャプター	共同代表:久保 優子(認定講師・認定ファンドレイザー・国際認証 CFRE)ワイズリンク 事務局長:長谷川 攝(准認定ファンドレイザー)日本フィランソロピック財団・国際基督教大学同窓 会 会計:天尾 美花 (認定ファンドレイザー) 東京大学ファンドレイザー
グローバルチャプタ <u>ー</u>	代表:五十嵐 豪(認定ファンドレイザー) 副代表:間辺 初夏(認定ファンドレイザー) 副代表:谷口 真菜実(認定ファンドレイザー) ボードメンバー:塚原 真琴(准認定ファンドレイザー) ボードメンバー:櫻井 祐樹(准認定ファンドレイザー)

災害対応チャプター	共同代表:上田 和孝(認定ファンドレイザー)新潟大学工学部 准教授 共同代表:永井 美佳(准認定ファンドレイザー)社会福祉法人大阪ボランティア協会 常務理事・事 務局長 運営委員:橋本 正彦(認定ファンドレイザー)、community HUB 江別港 代表 運営委員:宮原 美智子(准認定ファンドレイザー)一般財団法人くまもと未来創造基金 理事 運営委員:山崎 庸貴(認定ファンドレイザー)
ユースチャプター	代表:徳永 健人(認定ファンドレイザー)READYFOR 株式会社 副代表:川野辺 雪菜(認定ファンドレイザー)フリーランス 副代表:會澤 裕貴(認定ファンドレイザー)株式会社 PoliPoli

<表 2>スペシャルパートナー

協会との協働パートナーとして寄付市場形成に向けた様々な取組みを行ってきたスペシャルパートナー

社名	ホームページ URL
お宝エイド	https://otakara-aid.com/
株式会社ファンドレックス	https://fundrex.co.jp/
リタワークス株式会社	https://ritaworks.jp/
株式会社トラストバンク	https://www.trustbank.co.jp/

<表 3>2023 年度通常総会

日時	出席者	附議事項/報告事項
2023年6月13日(金) 19:00-20:30	総社員(運営会員)数 59 名 出席した社員数 35 名 (内訳本人出席 19 名、書面議決書 出席 13 名、議長に委任 2 名、議 長または議長が委任するものに委 任 1 名)	第1号議案(2022年度事業・活動報告) 第2号議案(2022年度収支決算報告) 第3号議案(2023年度事業・活動計画) 第4号議案(2023年度予算計画) 第5号議案(役員の選任と報酬)

<表 4> 2023 年度開催理事会

	日時	附議事項・相談事項
第 67 回理事会	2022年5月25日(木) 16:00-17:00	附議事項 1:2022 年度決算及び監事監査報告 附議事項 2:2023 年度通常総会議案書 附議事項 3:コンプライアンス規程の改定、電子署名規 程の新設
第 68 回理事会	2023年6月13日(火) 20:30-20:40	附議事項 1: 代表理事の選出
第 69 回理事会	2023年9月1日(金) 16:00-17:00	共有・討議 1 : FRJ2024 について 共有・討議 2 : JFRA 中期計画について

第70回理事会	2022年11月28日(火) 16:00-17:00	附議事項 1 : ユースチャプターの設立について 共有・討議 1 : JFRA 中期計画について 共有・討議 2 : FRJ2024 について
第71回理事会	2024年3月26日(火) 14:00-15:00	附議事項 1 : 2023 年度事業報告、2024 年度事業計 画並びに予算計画 附議事項 2 : 2024 年度以降の理事会の体制について

<表 5>2023 年度コンプライアンス委員会

	日時	内容
第3回	2023年9月20日(火) 11:00-12:00	・期間内の活動の報告 ・「合理的配慮」義務、について
第4回	2024年3月15日(火) 13:00-14:00	・期間内の活動の報告 (合理的配慮義務に関する実施内容の報告)

◇メディア掲載実績

2024年2月21日、22日 特定非営利活動法人 ETIC. 「DRIVE」メディア、寄付インタビュー

2024年1月20日 J-CAST ニュース「善光寺が修繕費をクラウドファンディングで募る 国立科学博物館は9億円集めた」

2024 年1月 17 日 読売新聞「募金もキャッシュレス決済」

2023 年 12 月 21 日 NHK 出版 NHK テレビテキスト『きょうの料理』1 月号「今できること…寄付特集」

2023 年 11 月 30 日 TBS ラジオ「荻上チキ・Session」特集「なぜ、日本では寄付文化が根付いていかないのか?」

2023年11月24日日本金融通信社「ニッキン」「カードゲーム体験会 寄付や社会貢献学ぶ」

2023 年 11 月 10 日 ABEMA Prime「カネよりモノ?大切なのはメッセージ性?大谷翔平に学ぶ「効果的な寄付」とは」

2023 年 11 月 8 日 日本経済新聞「映画 NPO が映す社会変革 起業家、非営利パワーを手に」

2023 年 10 月 31 日 公益財団法人山梨総合研究所「NPO による社会課題解決や価値創造のために求められるもの」

2023 年 10 月 25 日 第一生命経済研究所「ウェルビーイングを実現するライフデザイン ライフデザイン白書 2024」

2023年8月19日読売新聞「ふるさと納税教育支援に」

2023 年 8 月 10 日 TBS「ひるおび」「支援 全国で広がる様々な形 クラウドファンディング」

2023 年 7 月 14 日 NHK 総合「首都圏情報ネタドリ!」「人生が豊かに!?変わる寄付のカタチ」

2023年6月21日日本財団ジャーナル「世界の人助け指数でワースト2位。なぜ日本は寄付文化が広まらない?専門家に聞いた」

2023年6月19日週刊東洋経済「【第1特集】富裕層のリアル 国内150万世帯、受難の時代」

2023 年 5 月 1 日 公益財団法人結核予防会・機関誌「複十字」「ファンドレイジングの可能性〜共感が生み出す善意の資金循環〜」

2023 年度 収支決算報告

活動計算書

[税込] (単位:円)

			[税込](単位:円)
寺定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会		自 2023年 4月 1日	至 2024年 3月31
【経常収益】			
【受取会費】			
運営会員受取会費	1, 464, 000		
賛同会員受取会費	25, 865, 000	27, 329, 000	
【受取寄付金】			
受取一般寄付金	4, 947, 570		
Giving Japan基金	25, 000		
寄付教育推進寄付	1, 715, 338		
ファンドレイジングスクール奨学金寄付	400,000	7, 087, 908	
【受取助成金等】		.,,	
受取助成金	62, 600, 049		
受取補助金	13, 104, 885	75, 704, 934	
【事業収益】	13, 104, 003	10, 104, 334	
事業収益		122 200 000	
		132, 399, 000	
【その他収益】	0.700		
受取 利息	2, 738		
為替差益	117, 460	120, 198	
経常収益 計			242, 641, 040
【経常費用】			
【事業費】			
(人件費)			
給料 手当(事業)	47, 524, 373		
役員 報酬(事業)	7, 122, 400		
補助作業者給与(事業)	1, 939, 230		
通 勤 費(事業)	214, 536		
法定福利費(事業)	8, 491, 769		
人件費計	65, 292, 308		
(その他経費)			
期首棚卸高	7, 136, 702		
期末棚卸高	\triangle 7, 648, 497		
業務委託費(事業)			
	110, 188, 597		
諸書	7, 459, 407		
印刷製本費(事業)	458, 073		
会議費(事業)	1, 550, 883		
広告宣伝費(事業)	686, 500		
旅費交通費(事業)	9, 804, 184		
通信運搬費(事業)	277, 191		
備品消耗品費(事業)	2, 159, 631		
水道光熱費(事業)	208, 290		
地代 家賃(事業)	3, 738, 455		
賃 借 料(事業)	39, 380		
会場費(事業)	6, 635, 501		
減価償却費(事業)	3, 282, 400		
保 険 料(事業)	21, 170		
租税 公課(事業)	4, 083, 700		
研修費(事業)	557, 751		
支払手数料(事業)	892, 982		
支払寄付金(事業)	1, 248, 916		
雑 費(事業)	227, 500		
その他経費計	153, 008, 716		
	100, 000, 710	010 001 004	
事業費計		218, 301, 024	
【管理費】			
(人件費)	٠٠ چو		
給料 手当	10, 011, 188		
役員 報酬	4, 477, 600		
補助作業者給与	369, 377		
退職給付費用	228, 000		

通 勤 費	56, 332		
法定福利費	2, 229, 740		
福利厚生費	472, 137		
人件費計	17, 844, 374		
(その他経費)			
会場費	21, 184		
印刷製本費	73, 015		
会議費	21, 946		
旅費交通費	727, 872		
業務委託費	18, 769, 597		
研修費	658, 156		
通信運搬費	1, 796, 991		
備品消耗品費	410, 466		
水道光熱費	43, 631		
地代 家賃	783, 073		
広告宣伝費	413,000		
新聞図書費	20,610		
減価償却費	458, 190		
保険料	66, 302		
諸 会 費	804, 553		
租税 公課	4,000		
支払手数料	2, 668, 826		
支払 利息	52, 147		
為替 差損	3, 897		
雑費	84, 476		
その他経費計	27, 881, 932		
管理費 計		45, 726, 306	
経常費用 計		_	264, 027, 330
当期経常増減額			\triangle 21, 386, 290
【経常外収益】			
経常外収益 計			0
【経常外費用】			
過年度損益修正損		5, 322, 000	
経常外費用 計		_	5, 322, 000
税引前当期正味財産増減額			\triangle 26, 708, 290
法人税、住民税及び事業税		_	70,000
当期正味財産増減額			\triangle 26, 778, 290
前期繰越正味財産額		_	81, 492, 534
次期繰越正味財産額		_	54, 714, 244

貸 借 対 照 表

特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会

[税込](単位:円) 全事業所 2024年 3月31日 現在

<u> </u>		2024年	3月31日 現任
	《資産の部》		
【流動資産】			
(現金・預金)			
現金	66, 318		
普通 預金	29, 608, 570		
現金・預金 計	29, 674, 888		
(売上債権)	23, 01 1, 000		
未収金	12 070 872		
売上債権 計	12, 970, 872 12, 970, 872		
	12, 910, 812		
(棚卸資産)	5, 040, 405		
棚卸資産	7, 648, 497		
棚卸資産計	7, 648, 497		
(その他流動資産)			
立 替 金	1, 797, 965		
その他流動資産 計	1, 797, 965		
流動資産合計		52, 092, 222	
【固定資産】			
(有形固定資産)			
建物附属設備	175, 422		
什器 備品	294, 320		
有形固定資産 計	469, 742		
(無形固定資産)	100,112		
ソフトウェア	12, 982, 934		
無形固定資産を計	12, 982, 934		
(投資その他の資産)	12, 902, 934		
	1 000 400		
保証金	1, 868, 400		
退職給付引当預金	2, 040, 000		
投資その他の資産計	3, 908, 400		
固定資産合計	<u> </u>	17, 361, 076	
資産の部の合計			69, 453, 298
	《負債の部》		
【流動負債】			
未 払 金	11, 010, 267		
前 受 金	1,000,000		
預り金	503, 287		
未払消費税	185, 500		
流動負債計		12, 699, 054	
【固定負債】		12, 000, 001	
退職給付引当金	2, 040, 000		
	2,040,000	0 040 000	
固定負債計		2, 040, 000	14 500 054
負債の部 合計			14, 739, 054
F	《正味財産の部》		
【正味財産】			
前期繰越正味財産額	81, 492, 534		
当期正味財産増減額	$\triangle 26,778,290$		
正味財産 計	<u> </u>	54, 714, 244	
正味財産の部の合計			54, 714, 244
負債・正味財産合計			69, 453, 298
			•

4

【重要な会計方針】

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準 (2010年7月20日 2017年12月12日最終改正 NPO 法人会計基準協議会) によっています。

(1). 棚卸資産の評価基準及び評価方法

最終仕入原価法による原価法

(2). 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産:定率法 無形固定資産:定額法 (3).消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込み経理方式によっています。

【事業別損益の状況】

事業別損益の状況は以下の通りです。 明細は別紙に出力します。

【使途等が制約された寄付等の内訳】

使途等が制約された寄付等の内訳は以下の通りです。

当法人の正味財産は54,714,244円ですが、そのうち145,000円は、下記のように使途が特定されています。したがって使途が制約されていない正味財産は54,569,244円です。

「穏込」(単位・円)

中容	和子母与	水 抽 拱 中u 秦是	当期減少額	州士承古	備考
	期首残高	当期増加額	ヨ州枫少領	期末残高	1佣-5
受取寄付金					
寄付教育推進寄付	0	1, 715, 338	1, 715, 338	0	
ファンドレイジング・スクール奨学金	45, 000	400,000	300, 000	145, 000	
Giving Japan基金	0	25, 000	25,000	0	
受取補助金					
港区	0	7, 000, 000	7,000,000	0	
子ども宅食プロジェクト	0	6, 104, 885	6, 104, 885	0	
受取助成金					
日本国際協力財団	0	7, 000, 000	7,000,000	0	
国際協力NGOセンター	0	625, 549	625, 549	0	
三菱みらい育成財団	0	5, 000, 000	5,000,000	0	
CSES	0	49, 974, 500	49, 974, 500	0	
合計	45, 000	77, 845, 272	77, 745, 272	145, 000	_

【固定資産の増減内訳】

[税込] (単位:円)

						[AKC] (4E:17)
科目	期首取得価額	取得	減少	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額
(有形固定資産)						
建物附属設備	639, 036	0	0	639, 036	△ 463, 614	175, 422
什器 備品	3, 869, 300	458,040	651,530	3, 675, 810	△ 3, 381, 490	294, 320
(無形固定資産)						
ソフトウェア	16, 412, 000		0	16, 412, 000	△ 3, 429, 066	12, 982, 934
(投資その他の資産)						
保 証 金	1, 868, 400	0	0	1, 868, 400	0	1, 868, 400
退職給付引当預金	1,812,000	228,000	0	2,040,000	0	2,040,000
差入保証金	12, 155, 000	0	12, 155, 000	0	0	0
合計	36, 755, 736	686, 040	12, 806, 530	24, 635, 246	△ 7, 274, 170	17, 361, 076

【借入金の増減内訳】

[税込] (単位:円)

科目	期首残高	当期借入	当期返済	期末残高
長期借入金	5, 682, 000		5, 682, 000	0
合計	5, 682, 000	0	5, 682, 000	0

【役員及びその近親者との取引の内容】

役員及びその近親者との取引は以下の通りです。

[税込] (単位:円)

科目	財務需要に計上された金額	内、役員との取引	方、記集者及び文献を人等との取引
(活動計算書)			
事業費			
業務委託費	110, 188, 708	12, 709, 880	
諸謝金	7, 459, 407	254, 000	
活動計算書計	117, 648, 115	12, 963, 880	

【その他特定非営利活動法人の資産、負債及び正味財産の状態並びに正味財産の増減の状況を明らかにするために必要な事項】

支払寄付金は、社会貢献教育事業のプログラム (Learning by Giving) 実施上で提供した 寄付金である。

2023年度 決算 事業別損益の状況

特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会

自 2023年 4月 1日 至 2024年 3月31日

									[税込] (単位:円)
科目	ファント゚レイジンダ大会	ファント゚レイサ゚ー育成事業	寄付白書	社会貢献教育	寄付社会創造事業	ソーシャルインハ クトセンター	事業部門計	管理	合計
【受取会費】									
運営会員受取会費	0	0	0	0	0	0	0	1, 464, 000	1, 464, 000
賛同会員受取会費	0	0	0	0	0	0	0	25, 865, 000	25, 865, 000
【受取寄付金】							0		0
受取一般寄付金	450, 000	0	0	0	0	0	450,000	4, 497, 570	4, 947, 570
Giving Japan基金	0	0	25, 000	0	0	0	25,000	0	25, 000
寄付教育推進寄付	0	0	20,000	1, 715, 338	0	0	1, 715, 338	٥	1, 715, 338
ファンドレイジングスクール奨学金寄付	0	400, 000	0	1, 110, 000	0	0	400,000	٥	400, 000
【受取助成金等】	·	100, 000	Ů	· ·	· ·	Ü	100,000	ľ	100,000
受取助成金	0	2, 683, 549	0	5, 000, 000	0	54, 916, 500	62, 600, 049	0	62, 600, 049
受取補助金	0	2,000,040	0	3, 500, 000	3, 500, 000	6, 104, 885	13, 104, 885	0	13, 104, 885
【事業収益】	0	U	0	3, 500, 000	3, 500, 000	0, 104, 005	15, 104, 005	0	13, 104, 663
	10 000 000	00 005 700	1 400 015	0.010.040	0.000.170	67 755 504	100 000 000		100 000 000
事業 収益	19, 633, 266	26, 235, 766	1, 400, 315	8, 010, 940	9, 363, 179	67, 755, 534	132, 399, 000	0	132, 399, 000
【その他収益】	_	_	_	_	_	_	0		0
受取 利息	0	0	0	0	0	0	0	2, 738	2, 738
為替 差益	0	0	0	0	0	0	0	117, 460	117, 460
経常収益 計	20, 083, 266	29, 319, 315	1, 425, 315	18, 226, 278	12, 863, 179	128, 776, 919	210, 694, 272	31, 946, 768	242, 641, 040
(人件費)									
給料 手当	6, 386, 447	12, 830, 430	690, 427	4, 660, 380	7, 364, 552	15, 592, 137	47524373	10, 011, 188	57, 535, 561
役員 報酬	290, 000	626, 400	116, 000	301, 600	1, 276, 000	4, 512, 400	7122400	4, 477, 600	11, 600, 000
補助作業者給与	23, 086	323, 205	0	530, 980	161, 602	900, 357	1939230	369, 377	2, 308, 607
退職給付費用	0	0	0	0	0	0	0	228, 000	228, 000
通 勤 費	25, 400	52, 245	3, 057	20, 826	33, 372	79, 636	214536	56, 332	270, 868
法定福利費	1, 005, 388	2, 067, 947	121, 019	824, 320	1, 320, 925	3, 152, 170	8491769	2, 229, 740	10, 721, 509
福利厚生費	0	0	0	0	0	0		472, 137	472, 137
人件費計	7, 730, 321	15, 900, 227	930, 503	6, 338, 106	10, 156, 451	24, 236, 700	65, 292, 308	17, 844, 374	83, 136, 682
(その他経費)									
期首棚卸高	0	0	5, 899, 768	223, 735	1, 007, 907	5, 292	7, 136, 702	0	7, 136, 702
仕 入 高	0	0	0	0	0	0	0	0	0
期末棚卸高	0	△ 26, 917	△ 6, 139, 697	△ 584,069	△ 892, 522	△ 5, 292	△ 7, 648, 497	0	△ 7, 648, 497
業務委託費	8, 160, 261	10, 656, 335	851	13, 711, 006	5, 957, 707	71, 702, 437	110, 188, 597	18, 769, 597	128, 958, 194
諸 謝 金	0	4, 830, 750	10, 000	1, 360, 520	0	1, 258, 137	7, 459, 407	0	7, 459, 407
印刷製本費	27, 033	368, 550	0	59, 950	60	2, 480	458, 073	73, 015	531, 088
会 議 費	1, 106, 529	10, 616	0	38, 244	91, 504	303, 990	1, 550, 883	21, 946	1, 572, 829
広告宣伝費	0	0	180,000	506, 500	0	0	686, 500	413,000	1,099,500
旅費交通費	1, 427, 215	1, 360, 450	0	3, 162, 471	2, 594, 148	1, 259, 900	9, 804, 184	727, 872	10, 532, 056
通信運搬費	33, 445	104, 232	3, 696	103, 765	7, 161	24, 892	277, 191	1, 796, 991	2, 074, 182
備品消耗品費	52, 372	55, 586	. 0	2, 047, 483	1, 120	3,070	2, 159, 631	410, 466	2, 570, 097
新聞図書費	0	0	0	0	, 0	0	0	20,610	20, 610
水道光熱費	23, 741	33, 112	902	32, 069	19, 040	99, 426	208, 290	43, 631	251, 921
地代 家賃	426, 111	594, 301	16, 190	575, 585	341, 742	1, 784, 526	3, 738, 455	783, 073	4, 521, 528
賃 借 料	39, 380	0 0 1, 0 0 1	0,100	0.0,000	011,112	1, 101, 020	39, 380	0	39, 380
会場費	4, 755, 080	٥	0	847, 589	110,000	922, 832	6, 635, 501	21, 184	6, 656, 685
減価償却費	1, 100, 000	0	0	3, 282, 400	110,000	022,032	3, 282, 400	458, 190	3, 740, 590
保険料	19, 010	2, 160	n	0, 202, 400	n	0	21, 170	66, 302	87, 472
諸 会 費	15,010	2, 100	0	0	0	0	21, 170	804, 553	804, 553
租税公課	605, 566	809, 213	43, 191	247, 089	288, 797	2, 089, 844	4, 083, 700	4,000	4, 087, 700
研修費	12,000	4, 644	10, 131	211,000	272, 329	268, 778	557, 751	658, 156	1, 215, 907
支払寄付金	12, 500	1, 011	0	1, 248, 916	1,2,020	200, 110	1, 248, 916	000, 100	1, 248, 916
支払手数料	463, 995	0	0	408, 987	0	20,000	892, 982	2, 668, 826	3, 561, 808
為替 差損	100, 330	0	0	400, 301		20,000	032, 302	3,897	3, 897
支払 利息	0	0	0	0	0	0	0	52, 147	52, 147
文仏 利心 雑 費	0	0	0	0	0	227, 500	227, 500	52, 147 84, 476	311, 976
** 質 その他経費計	17, 151, 738	18, 803, 032	14, 901	27, 272, 240	9, 798, 993	79, 967, 812	153, 008, 716	27, 881, 932	180, 890, 648
経常費用計	24, 882, 059	34, 703, 259	945, 404	33, 610, 346	19, 955, 444	, ,	218, 301, 024	45, 726, 306	264, 027, 330
当期経常増減額	△ 4, 798, 793		479, 911				△ 7, 606, 752		

[税込](単位:円) 2024年 3月31日 現在

土尹未川		2024 +	・ 3月31日 先任
	《資産の部》		
【流動資産】			
(現金・預金)			
現金	66, 318		
普通 預金	29, 608, 570		
住信SBIネット銀行	(22, 833, 334)		
住信SBIネット\$ (米ドル)	(298)		
三菱UFJ 1	(5, 773, 532)		
三菱UFJ 2	(61, 641)		
ゆうちょ銀行	(1, 434)		
郵便振替	(681, 927)		
中国銀行	(2, 296, 404)		
退職引当	$(\triangle 2, 040, 000)$		
現金・預金 計	29, 674, 888		
(売上債権)	20, 0.1, 000		
	19 070 079		
未 収 金	12, 970, 872		
文化庁	(4, 992, 570)		
文京区こども宅食事業	(3, 072, 425)		
一財)ふくしま百年基金	(1, 320, 000)		
社会貢献教育CF寄付金	(1,036,350)		
その他	(2, 549, 527)		
売上債権 計	12, 970, 872		
(棚卸資産)	12, 0.0, 0.2		
棚卸資産	7 649 407		
247	7, 648, 497		
ジャーナル	(115, 662)		
寄付白書	(5,023,697)		
Giving Japan	(1, 116, 000)		
ブックレット	(76, 874)		
寄付をしてみようと、と思ったら読む本	(401, 280)		
社会に貢献する	(84, 357)		
遺贈寄付ハンドブック	(326, 672)		
社会貢献教育ハンドブック			
	(98, 432)		
社会的投資市場形成に向けたロート・マップ	(328, 434)		
遺贈寄付 最期のお金の活かし方	(44, 880)		
社会的インパクトとは何か?	(5, 292)		
赤テキスト (冊子)	(26, 917)		
棚卸資産 計	7, 648, 497		
(その他流動資産)			
立替金	1,797,965		
源泉所得税	(1, 286, 506)		
その他補助	(511, 459)		
その他流動資産 計	1, 797, 965		
流動資産合計		52, 092, 222	
【固定資産】			
(有形固定資産)			
建物附属設備	175, 422		
パーテーション	(110, 027)		
電気工事	(29, 258)		
電気配線電話工事	(36, 137)		
什器 備品	294, 320		
コピー機	(1)		
電話回線	(1)		
看板	(1)		
パソコン10台	(294, 317)		
有形固定資産 計	469, 742		
(無形固定資産)	100,112		
	19 009 094		
ソフトウェア	12, 982, 934		
決済システムとマイページ	(9, 609, 600)		
寄付カードゲーム開発	(3, 373, 334)		
無形固定資産 計	12, 982, 934		
(投資その他の資産)			
保 証 金	1,868,400		
退職給付引当預金	2, 040, 000		
程6~(/)州(/)6岸 ÷	3 008 100		
投資その他の資産 計 田宝姿辞会計	3, 908, 400	17 961 076	
投資その他の資産 計 固定資産合計 資産の部 合計	3, 908, 400	17, 361, 076	69, 453, 298

《負債の部》

	大		
【流動負債】			
未 払 金	11, 010, 267		
経費	(3, 552, 535)		
株式会社コムネット	(1, 824, 130)		
有限会社パリティクラブ	(1, 232, 000)		
TOC有明	(934, 120)		
株式会社テーオーシー	(858, 000)		
その他	(2, 609, 482)		
前 受 金	1, 036, 000		
会費	(1,036,000)		
預 り 金	503, 287		
報酬等所源泉	(138, 125)		
雇用保険料	(49, 962)		
住民税	(315, 200)		
未払消費税	185, 500		
流動負債 計		12, 699, 054	
【固定負債】			
退職給付引当金	2,040,000		
固定負債 計	<u> </u>	2, 040, 000	
負債の部の合計		_	14, 739, 054
正味財産		<u>.</u>	54, 714, 244

監査報告書

認定特定非営利活動法人 日本ファンドレイジング協会 代表理事 鵜尾雅隆 様

私たちは、特定非営利活動促進法第18条の規定に基づき、認定特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会の2023年度(2023年4月1日から2024年3月31日まで)の業務監査及び会計監査を行った。

理事の業務執行の状況に関する監査に当たっては、理事会に出席し、必要と認める場合には質問を行った。また、財産の状況に関する監査に当たっては、現地監査と電子データの事前送付の方法により、財務諸表等(活動計算書、貸借対照表、財務諸表の注記及び財産目録)と帳簿や証拠書類等との照合、質問等の合理的な保証を得るための手続きを行った。

監査の結果、理事の業務施行は、法令、定款及び事業計画に基づき適正に執行され、不 正の行為または法令・定款に違反する重大な事実はないことが認められた。

また法人の財産状況は、NPO法人会計基準に準拠して、財務諸表等に適正に表示されているものと認められた。

以上のとおり報告する。

2024年5月14日

監事 相浦圭太

同 工藤敦子